

2012年 9月23日(日)

第1回 阪神間の酒と文学

～ 世界に誇る文学を醸し出した宮水と灘の酒

講師：河内厚郎

小西巧治

こよなく酒を愛した歌人、若山牧水（1885～1928）は、酒に関する多くの歌を残しました。

「白鹿の 齒に泌みわたる 秋の夜の 酒はしみじみ 飲むべかりけり」
「津の国の 伊丹の里ゆ はるばると 白雪来る その酒来る」
「手にとらば 消なむしら雪はしけやし この白雪は わがこころ焼く」

鉄道唱歌 東海道編61番「神崎よりはのりかへて ゆあにのぼる有馬山
池田伊丹と名にきゝし 酒の産地とともとほるなり」

芦屋に住んだ詩人、富田碎花（1890～1984）の旧居（芦屋市宮川町、谷崎潤一郎旧居）の庭にある歌碑

「しんとろり こはくのいろの 滴りの 澄めば澄むもの 音のかそけく」

田辺聖子（1928～）の小説『女の日時計』

旧家の造り酒屋に嫁いだ女性の、満たされながらも微妙に揺れ動くおんなごころを描く。
夙川の住宅街が登場。

角田光代（1967～）の小説『対岸の彼女』

「酒は大関」とつぶやくシーンが作中にある。

吉田健一（1912～1977）の小説『酒宴』

主人公の語り手は、銀座で灘の利き酒名人と呑みはじめ、その名人に案内されるままに別の飲み屋に行き、さらにその勢いでそのまま灘に足を運び酒宴となる。その酒宴に参加した人々の姿が、四十石、七十石入り大酒タンクに変化（へんげ）する。

平成 24 年度 西宮文学案内 秋期講座

第 1 回 阪神間の酒と文学 ～ 世界に誇る文学を醸し出した宮水と灘の酒

資料

西暦	村上春樹クロニクル	西宮市の出来事
1949 年	生後間もなく酒どころ伏見から西宮へ	
1955 年	浜脇小学校入学 西宮神社も遊び場	
1957 年	新設の香櫨園小学校へ集団転校	
1959 年	旧西宮市立図書館へ頻繁に通う（高学年時）	田島淳太郎市長就任
1960 年	甲山へ徒歩遠足	西宮沖埋め立て計画と日石誘致を発表 大阪神都構想 宝塚市合併市議会決議
1961 年	香櫨園小学校卒業 芦屋市立精道中学校入学	西宮を 2 分する日石誘致と反対運動
1962 年		* 酒造家を中心の日石誘致反対西宮連絡協議会 主要メンバー通産大臣佐藤栄作氏に陳情 * 西宮市議会本会議で日石誘致案が可決。 * 田島市長は日石誘致の白紙撤回
1963 年		* 日石誘致推進派の現職田島市長選挙で敗れる * 辰馬龍雄氏新市長に * 文教住宅都市宣言
1964 年	精道中学校卒業 県立神戸高校入学	
1967 年	県立神戸高校卒業	
1968 年	早稲田大学入学	
1969 年		芦屋浜埋立て開始
1975 年		芦屋浜埋立て完成
1978 年		高層建築完成
1979 年	「風の歌を聴け」で受賞し作家デビュー	
1981 年		西宮浜埋立て開始
1982 年	羊を巡る冒険 埋立てへの嫌悪 雑誌「神戸からの手紙」のインタビュー	
1983 年	カンガルー日和 「古い防波堤」と「50 メートルの海岸線」	
1989 年		西宮浜埋立て完工
1995 年		阪神淡路大震災
1997 年	一人で、西宮から神戸まで歩く 西宮神社へも立ち寄る	
1998 年	「辺境・近境」出版	
2002 年	「海辺のカフカ」出版	
2010 年	「1Q84」出版	